

■【トピックス】

サバイバル!



明けましておめでとうございます。新年、早々、今年が少しでも良い年であることを祈らずにはいられませんね

世界的な不景気で、すべての人々と企業にとって今年は生き残りをかける年になりそうです。

他人と同じでは生き残れそうにはありません。自分の頭で考え、勇気をもって行動するしかなさそうです。これまでの常識は通用しません。しかし、これまでの蓄積は役に立ちます。きっと。

■【ビジネス・アイ】

粉飾決算（その1）

社長 「花野さん、今度の不景気はひどいね。これまで、こんなにひどいのは経験したことがないよ」

花野 「そうですね。これまでのようにしばらく我慢すれば、先が見えるという感じではないですね。人によっては、まだまだ入り口で10年ぐらいは続くという人もいますね」

社長 「受注もどんどん減っているから今度の決算が心配だよ。利益が出ないと借入りの返済もできないし、このままの調子だと夜も眠れそうになくなるよ」

花野 「それもそうですが、最終的に減収でも利益だけは確保しないと銀行の姿勢も厳しくなりますから、その点は社長に頑張ってくださいませんか」

社長 「どうしても利益が出ないようであれば、減価償却をやめようかね」

花野 「それは、私の立場からはお勧めできませんね。粉飾を一度行くと翌年には金額が大きくなって行って、最後には経営者にも会社の実態が分からなくなってしまいますから」

社長 「でも銀行が貸してくれないといたら考えるよ」

花野 「そうならないように、対策を考えましょう。幸い御社の財務体質はここ数年改善していますので、まだ危機的状況にはありませんから」

社長 「そうだね。こういう時こそじっくり腰を据えてかまえることにするよ。やるべきことは、まだまだたくさんあるからね」

■【今月のキーワード】

粉飾決算

景気が悪くなると、銀行の対応も厳しくなってきます。そうすると、経営者はどうしても決算をよく見せて貸し渋りや貸し剥がしにあわないようにと考えてしまいます。

でも一度手を染めると、雪だるま式にその金額も大きくなり、不正な経理をごまかせなくなります。銀行の方でも粉飾はある程度分かっていますので印象もよくありません。

何よりも経営者自身が、会社の本当の姿が分からなくなってしまいます。

■【今月の1冊】

『ならず者の経済学』

ロレッタ・ナポレオーニ 著

徳間書店

¥1800

アメリカ発の金融危機により、世界が恐慌に陥ろうとしています。その原因は何であったのか。資本主義の強欲であったのか。処方箋はあるのか。

イタリアの気鋭の女性経済学者がその疑問に答えてくれます。その原因はあまりにひどい「ならず者に支配された経済」です。しかし、わずかですが希望はあります。ご一読を!



■【編集後記】

新しい年が始まったばかりだというのに、明るい話題はありませんね。

政治に期待できない時に、市民はどうすれば良いのでしょうか。

大きな変化が始まりつつあるのかしれません。

『NEWS LETTER』 vol. 22 (毎月1日発行)

●定価：2,400 円/年 ●発行日：2009.1.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエムビル5F

TEL052-205-6361 FAX052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>